



ありがとうの気持ちを心に

館林市立第七小学校 6年 茂木 飛空

ぼくは、食べる事が好きです。一番好きなのは、やっぱり白いご飯です。

今年は、異常気象で、ぼくが住んでいる町は、雨量が少なく、暑い日が続いています。日本各地で、異常気象のえいきょうが出ています。また、その様な現象は、世界中でもニュースになっています。

ぼくは、そんな天気によって左右されてしまう、大好きなご飯になるお米の事を、大切に育ててくれている、農家の人達に感謝したいと思いました。

ぼくの家の周りには、田んぼがいっぱい広がっています。春になると、農家の人が一生けん命に田植えをしています。その風景もきれいで、ぼくは好きです。学校の行き帰り、田んぼをのぞいて見ると、おたまじゃくしやアメンボが、水の中や上を気持ち良さそうに泳いでいます。稲の成長も楽しみだけど、生き物を探すのもワクワクします。稲が成長して、穂になり背丈も伸びて来ます。緑色の景色も、秋頃には黄色になります。その頃には、生き物にも変化があり、バッタを見かけるようになります。ぼくが毎年、毎年、新しいお米を食べられるまでには、そんな季節の変わり目も感じさせてくれます。その間、農家の人達は、おいしいお米が出来るように、愛情をたっぷり注ぎながら育ててくれています。

雨が降らないと、稲も育ちません。でも、降り過ぎてしまってもおいしいお米が育たないのです。太陽の光と恵みの雨、二つの力がぼく達が食べるご飯をおいしくしてくれています。白いご飯が大好きなぼくにとっても、その二つのカプラス、農家の人が、汗水流しながらお米を育ててくれる愛情も大切なのです。西日本では、豪雨により、農作物がダメになってしまっているそうです。野菜や果物、お米もです。農家の人達にとって、きっと想像も出来ないような災害だったと思います。一年を通して、色々な事を農作物を育てるために行ってきた事でしょう。ぼくも胸が痛みました。ぼくたちの住んでいるこの町では、今、稲がすくすく育っています。今の所、異常気象による被害は無さそうで、よかったです。ぼくが今年のお米を食べるまで、農家の人達は、まだまだ汗水流し、働いてくれるのです。だから、ぼくは、ご飯を食べる時、いつでも感謝の気持ちを忘れずに、残さず食べるよう心がけて、その日を待っていたと思います。

「ありがとう。」

って言葉を、ぼくはいつも心に思っています。大切に育ててくれている農家の人達に、感謝の気持ちを忘れません。